

月刊 新翔タイムズ

第40号
新翔タイムズ
編集室
発行・熊野新聞社

4つの教育目標など説明

近隣中学校の先生招き連絡会議

県立新翔高校は9日、近隣中学校の先生方を招き「中高連絡会議」を開いた。授業参観のあと、あいさつする七瀬高全校長。

会議に入り、七瀬高全校長は、あいさつを兼ねて学校概況を説明。本校の「4つの教育目標」について、本校の教職員が生徒一人ひとりの希望進路実現を保障するように一



「なぜ人間は働く?」

「産業社会と人間」の授業の一環として11日、奈良産業大学ビジネス学部教授の西村剛先生の講演が行われ、1年生160人が「働くこと」の意義について耳を傾けた。

この授業は1年生必修科目として設定し、職業観・勤労観を育成し、卒業後の進路や人生を設計するとともに、課題解決能力を身につけることを目的としている。

「人間は何のために働くのか? ようか?あなたは将来どんな「働き方」をするのでしょうか?」をテーマに、「自分の人生をどのように変えていくことができるのか?」について考えた。

奈良産大の西村教授が講演

分が得意なこと、好きなことをみつけて、人生設計を考えていきましよう。また、まだ自分自身も知らない隠された、秘められた潜在能力を見つめるため、自分の性格を知る自己分析をする(ことも)一つの方法と話した。

最後に「若いときの苦労はかかってもしろ」とよく人はいいますが、自分の望んでない苦労する必要があるかもしれません。自分が望んでいても、人にやらされている苦労ではなく、頑張ることが出来るのです。そういった興味のあるものを早く見出して下さい。

『人生は楽しんだもの勝ち』と締めくくった。

生徒からは、「人間は何のために働くのか?」がわかったと、や、看護師を目指している生徒からは「まず努力が大切」ということを感じたなどの感想が聞けた。



古道の保全活動とウォーク

2、3年生30人が田辺市本宮町で

観光系科目を選択している2、3年生30人はこのほど、和歌山県世界遺産センター(田辺市本宮町)の指導で、世界遺産を学ぶために熊野古道の保全(道普請)と熊野古道ウォークを行った。

今回は、式水から300ほど上った古道への土入れ(1ト)と、熊野本宮大社までの古道を歩いた。新翔高校観光科が行う道普請はこれで4回目。



じゃばらの里・いかだの村



2年生16人が北山村を学ぶ



地域文化系列の2年生16人は15日、じゃばらの里・いかだの村で有名な北山村で現地学習を行った。

今回は、じゃばら収穫とじゃばらジャムづくりを体験。また、エネルギー問題・環境問題を学習観点から、同村が取り組む自然循環型社会の一環として、おくとろ温泉で薪ガスボイラー見学と七色ダムで水力発電を学習した。

クラブ紹介

美術部



新翔高校美術部は現在19名の生徒が所属し、活動をしています。活動内容は主に県総合文化祭、学校文化祭、公募展、地域の展覧会への出品です。今年度に入り、元気な一年生が仲間に加わり美術部はにぎやかさを増しています。

絵を描くことが好き、ものをつくるのが好き、自分で何かを作りたい、そんな純粋な気持ちからクラブ活動に参加し、ひとりひとりが自分の表現したいことを探りながら粘り強く作品づくりに取り組んでいます。部員

たちは学年を問わず仲が良く、お互いに手を貸し合ったり、友達との作品に助言をしたりする場面が多くみられる。雰囲気の良いクラブです。

今年度は和歌山県内の高等学校が集って開催される県総合文化祭に、台風12号の影響で作品のみの参加となりました。自分たちの足で見学に行くことができず、落ち込むこともありましたが、そんなことにも負けず今後新たな作品づくりに意気込みをもちながら日々頑張っています。

第2回学校評議員会



本校は15日、第2回学校評議員会を開催した。評議員の皆さんによる校内の施設見学、授業参観のあと協議が行われた。同会の目的は、学校運営などについて、校外の有識者から幅広く意見を聞き、同校教育の改善充実に資するとともに、地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、学校が家庭や地域と連携協力しながら特色ある教育活動を展開することが狙い。

七瀬校長は「校内美化や学力向上その他について、さまざまな意見提言をお願いしたい」とあいさつ。その後協議が行われ、早いうちに将来の目標をイメージさせることが大切。全校生徒がクラブ活動に参加し頑張ればある資格。担当教員は、「資格は自分の武器になる。今回の合格をきっかけに後輩達もついてほしい」と語った。

西田君は本校の情報系列に所属し、明るく真面目な生徒。放課後の補習を活用して苦手分野を克服してきた。台風12号被害を乗り越えての価値ある合格に本人も喜びを噛みしめた。

ITパスポート試験に合格



西田 憲司君

10月16日実施された経済産業省主催の情報処理技術者試験(ITパスポート)で、3年生の西田憲司君が見事合格を果

たした。本校では初めての快挙。本校では初めて同試験は、職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を測る国家試験として平成21年度から新設された。昨年度、県内の商業加盟校生徒が6人しか合格していない難関試験で、情報分野では権威の

教科教育法研究授業

商業科 甲本先生

商業科の甲本先生は15日、1年4組のビジネスライフスタディの授業で研究授業を実施した。13日に行われた珠算電卓実務検定の解説と、新しい単元の「代金決済の方法」の小切手についての内容。

珠算電卓実務検定の出来具合を確かめながら授業の導入を行い、生徒たちは、小切手の金額をチェックライタで打ち込むことに興味を持って取り組んだ。

体育科 中山先生

体育科の中山先生は15日、保健の授業を行った。授業改善のための研究協議もそのあと行われた。

本校職員以外にも市教育委員会の方、子ども会の方やこの日は、第2回の学校評議員会の日程も重なったため、本校周辺の評議員も参加された。授業改善の目的は、学校運営などについて、校外の有識者から幅広く意見を聞き、同校教育の改善充実に資するとともに、地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、学校が家庭や地域と連携協力しながら特色ある教育活動を展開することが狙い。

芸術科「美術」 菅古先生

授業の始まりは規律ある行動がとれていた。生徒は起立の状態でも字の指示、注意を受けることから開始。授業内容の板書は細かな指示まで丁寧でも分かりやすい。展開作業に入る。常に笑顔で指導に入る教員の姿は生徒にとって安らぐ雰囲気醸成していた。班別での共同作業に入ると、生徒間も笑みかほれ、積極的参加が多く見られた。

授業の題材選び、構想(ねらい)ともに芸術的意識が高く、生徒の生き生きとした眼が印象的であった。



県産業教育振興会賞(2位)受賞

1年1組 田中杏奈さん

10月28日から30日までの和歌山市内で「商業教育フェスタ」が開催された。その一環として、商業美術の振興と日常活動の作品成果の発表を目的とした「第60回和歌山県高等学校 商業美術展」がフォルテワジマにて行われた。

県内の参加校がクラブ活動や授業での作品を展示し、会場を色とりどり飾っていた。ポスターや新聞の広告デザインなど、高校生の視点からのデザインやアイデアが作品に現れており、見る人を驚かせてくれる興味深いものが多かった。

この美術展では毎年上位3人の生徒作品に賞が

先生の紹介



岡本 淳子先生

新翔高校で家庭科を担当しています岡本淳子先生です。1年5組の副担任で、クラブは家庭科クラブの顧問をしています。

先生は被服ですが、料理が趣味で、今はパン作りに興味があります。生徒に将来役立つこと、また今日から役立つことを授業内容に取り入れたいという日々考えています。

以前はお菓子を作りたい生徒が多かったように思いますが、近年は普段の料理に興味をもつ生徒が増えてきているように思います。これは、新翔高校の生徒の生活力がある現れであると思ひ、頼もしく感じています。

子どもたちの夢が広がって、将来の家庭生活に希望が持てるよう、生活技術の向上に微力ですが努めたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。